

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：32102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K13746

研究課題名（和文）従業員の主観的評価についてのアンカリング・ヴィネット手法を用いた実証分析

研究課題名（英文）Empirical analysis of employees' subjective evaluations using the anchoring vignette method.

研究代表者

参鍋 篤司 (Sannabe, Atsushi)

流通経済大学・経済学部・准教授

研究者番号：70456763

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：当該研究費を使用させていただき、アンケート調査を二度行った。第一回目は、働く人々を対象としたものであり、男女間で幸福度に違いがあること、すなわち、女性の方が男性よりも幸福度が高く出ることが多いのはなぜか、という問いに対して、それは女性のほうが期待する水準が低いからであるという仮説（期待水準仮説）と、女性のほうが時間の使い方が有効であり、幸福度が高まるから、という二つの仮説を検証した。結果は、期待水準仮説を強く支持するものであった。日本経済研究に掲載される。二回目のアンケートは、計得y差を対象としたアンケートであり、経営者から見た会社の生産性を問うものである。これについても近日中に発表する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

女性のほうが幸福度が高いという、男女間の幸福度の違いが長年観察されてきた。その理由については、様々な推測が為されてきた。中には、女性のほうが幸福であるのは、文字通り女性のほうが幸福で恵まれた（優遇された）生活を送っているからだ、と主張するものもあった。本研究をもとにすれば、男女間の格差が生じる有力な理由を論理的に説明できる。これは男女間の格差を考えるうえで、政策立案上も有用であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This research fund was used to conduct two questionnaire surveys. The first survey was conducted among the Japanese working people and asked why there is a difference in the level of happiness between men and women, i.e. why women's happiness is often higher than men's. The hypothesis that this is because women have lower expectations (expectation level hypothesis) and the hypothesis that women are more effective in the use of their time, which increases their level of happiness, were tested. The results strongly support the expectation level hypothesis. The results are published in JCER economic journal. The second questionnaire was a questionnaire asking about the productivity of the company from the manager's point of view. This paper will also be published.

研究分野：労働経済学、経営学

キーワード：幸福度 生活満足度 アンカリング・ヴィネット 男女間格差

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年では、社会科学分野において、主観的な変数の数値を分析する論文が増えている。しかしながら、いくつかの批判が為されているのも事実だ。特に、主観的な変数を個人間で比較できるのか、という批判は根強くある。

例えば、「主観的健康度」という指標がある。これは、個々の人が自分の健康状態を自分で評価するものだ。この主観的健康度の地域ごとの数値を調査し、主観的健康度が低い地域には多額の資金を投じ、そこで健康改善を推進する、といった政策策定の基盤となることもある。これは現在でも、日本でしばしば行われていることである。この主観的健康度という指標について、アマルティア・センは、大まかに以下のように述べている。「健康状態が同等と見なされる二人のインド人を考えてみよう。一人は非常に貧しい、衛生環境の悪い地域で育ち、そこでは病気になることが普通だから、少々健康に問題があっても、自分はそれほど不健康だとは感じない。一方、富裕な地域で育った者は、健康的な生活が普通で、わずかな病気でも自分の健康状態を悪く評価する。この二人が主観的健康度を報告すると、たとえ健康状態が同等であっても、主観的健康度は必ずしも一致しない可能性が高い。つまり、貧しい地域で育った人は主観的健康度が高く、富裕な地域で育った人は主観的健康度が低くなりやすい。主観的健康度を基に資金配分を決めると、貧困地域への政策対応の投資額は適切な水準を下回ってしまう可能性がある。」

ここから学べることは、主観的な変数を人と人とで比較する際には、個々の人が持つ「基準」を調整する必要があるということだ。先の例を取れば、貧しい地域で育った人は自分が健康であるか否かを判断する基準が低めだ。反対に、富裕な地域で育った人の場合、その基準は高めだ。基準が低いと、自分の健康状態がその基準を容易に超えるため、自評健康度は高く出る傾向がある。こうした基準を調整する方法として、最近、注目を集めている統計的な手法が、アンカリング・ヴィネット (anchoring vignettes) というものだ。

ヴィネットという言葉は、芝居の一場面などを意味している。アンカリング・ヴィネットの手法においては、ヴィネットは、架空の人物の置かれた状況を表す言葉になる。例えば、インド人のラジェッシュ氏という人がいるとする。そして、ラジェッシュ氏の健康状態を記述する：

「ラジェッシュは、ケガの痛み日々苦しんでいる。50メートルほどならば人の介助なしに歩けるが、階段の上り下りには非常に苦勞をする、etc. . . .」

このように、ラジェッシュ氏の健康状態を具体的に記述するのである。そこで、先ほどの例に登場した、インド人二人に、「もし、あなたがこのラジェッシュ氏だったとしたら、このラジェッシュ氏の主観的健康度はどれくらいになりますか」と質問するのである。このとき、このインド人二人は、共通の、同じ健康度の人間(ラジェッシュ氏)について評価していることに注意されたい。もし、貧しい地域に育った人がラジェッシュ氏の健康度を高く評価し、富裕な地域に育った人が低く評価した場合、その評価の差は、二人の「基準」の差から生じているといえるだろう。この情報を利用して、二人の異なる基準を揃える。そして、彼ら自身の主観的評価のレベルを修正するのである。そうすると、本来観察されるべきではない主観的健康感の違いが、消滅する可能性がある。

2. 研究の目的

そこで私が考えたことは、以下のようなテーマ、即ち、男女間の幸福度の違いである。日本に限らず、世界的に、幸福度を調査すると、女性のほうが高めに出る。これはなぜだろうか？しばしばマスコミ等では、反フェミニズムの立場にあると思われる人々が、女性のほうが実際に恵まれているからだと主張するが、そうした事実はほとんど観察されないと言ってよいだろう。既存研究によれば、そうした男女間格差は、女性の方が幸福度を高めることに貢献する諸活動により多くの時間を割いているというものである。もう一つの有力な説明としては、女性の方が長らく社会的に男性と比べあまり成功するチャンスが機会が与えられてこなかったため自分が成功していると判断する基準が男性に比べてより低いというものである。前者を時間配分仮説、後者を基準仮説と名付けた。上述したアンカリング・ヴィネットの手法を使えばこのどちらがより有力な説明としての理論であるのか実証することができると考えた。

3. 研究の方法

そこでアンカリング・ヴィネットを手法を用いて 上述の理論のどちらがより説明力が高いのか実証的な研究を行なった。当該研究基金を用いたアンケート調査を行った。その結果は基準仮説が、比較的により強い説明力を持つものであると判明した。

4. 研究成果

この研究成果は 査読論文として日本経済研究に出版される予定である。また、アンカリング・ヴィネットの手法を用いて、バイアスなく実施するために満たしていなければならない諸条件を満たすための簡便な方法を用いた分析例を国際的学術誌に発表していきたいと考えている。

また、同様の問題は仕事満足度等においても生じうる。実務的にはしばしば仕事満足度の高さを良い状態、生産性の高い状態と評価するが、自分の中で納得できる仕事の基準が低い人ほど仕事満足度が高く出て、自分に厳しい人ほど仕事満足度が低く出る可能性がある。こうした問題にも応用していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 参鍋篤司	4. 巻 -
2. 論文標題 なぜ女性は男性より生活満足度が高いのか - アンカリング・ヴィネット分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本経済研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

働き方改革の影響 Vol.1 労働時間の短縮は幸福度を高めるか https://rc.persol-group.co.jp/column-report/20181120001.html
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------